

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
【部門区分】第6部門第1区分
【発行日】令和2年2月6日(2020.2.6)

【公表番号】特表2018-538539(P2018-538539A)
【公表日】平成30年12月27日(2018.12.27)
【年通号数】公開・登録公報2018-050
【出願番号】特願2018-532051(P2018-532051)
【国際特許分類】

G 0 1 S 13/40 (2006.01)

【F I】

G 0 1 S 13/40

【手続補正書】

【提出日】令和1年12月12日(2019.12.12)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

方法であって、

周波数変調連続波(FMCW)レーダーにより生成されるチャープ信号を直交信号にダウンコンバートすることと、

I F 信号を生成させるために前記直交信号をデジタル化することと、

前記 I F 信号の瞬時周波数を判定することと、

前記チャープ信号の周波数線形性を判定するために前記 I F 信号の前記瞬時周波数を前記チャープ信号の所定の瞬時周波数と比較することと、

を含む、方法。

【請求項2】

請求項1に記載の方法であって、

前記 I F 信号の瞬時周波数を判定することが、前記 I F 信号の導関数を計算することを含む、方法。

【請求項3】

請求項1に記載の方法であって、

前記 I F 信号の瞬時周波数を生成させるために前記 I F 信号の位相の導関数を計算することと、

前記瞬時周波数を線に合わせることと、

前記周波数線形性を生成させるために前記瞬時周波数の線と所定の瞬時周波数を構成する線との間の差を判定することと、

を更に含む、方法。

【請求項4】

請求項1に記載の方法であって、

前記ダウンコンバートすることが、スペクトル分析器を用いて前記チャープ信号を直交信号にダウンコンバートすることを含む、方法。

【請求項5】

請求項1に記載の方法であって、

前記チャープ信号のダイナミック位相ノイズを判定することを更に含む、方法。

【請求項6】

請求項 1 に記載の方法であって、
ダイナミック位相ノイズを判定することであって、
前記 I F 信号の前記瞬時周波数サンプルを生成させるために前記 I F 信号の位相の導関数を計算することと、
周波数誤差サンプルを生成させるために前記瞬時周波数のサンプルと所定の周波数サンプルとの間の差を判定することと、
位相誤差サンプルを生成させるために前記周波数誤差サンプルを積分することと、
前記ダイナミック位相ノイズを生成させるために前記位相誤差サンプルのパワースペクトル密度関数を計算することと、
により、前記ダイナミック位相ノイズを判定することを更に含む、方法。

【請求項 7】

請求項 1 に記載の方法であって、
ダイナミック位相ノイズを判定することであって、
前記 I F 信号の位相サンプルを判定することと、
所定の位相サンプルを計算することと、
位相誤差サンプルを生成させるために前記所定の位相サンプルに対する前記位相サンプル間の差を判定することと、
ダイナミック位相ノイズを生成させるために前記位相誤差サンプルのパワースペクトル密度を判定することと、
により、前記ダイナミック位相ノイズを判定することを更に含む、方法。

【請求項 8】

請求項 1 に記載の方法であって、
前記チャープ信号を構成する複数の帯域幅を分析することと、
前記チャープ信号の分析を生成させるために前記複数の帯域幅を分析した結果を組み合わせることと、
を更に含む、方法。